

こです HOKKAIDO 2021

(令和 3 年度版)

**Collected papers
Domestic Science
Studies**

北海道高等学校長協会家庭部会

こです HOKKAIDO 2021 【令和3年度版】

目 次

○	巻頭挨拶					1
	北海道高等学校長協会家庭部会長	北海道江別高等学校長	田	邊	禎	明
○	「新学習指導要領とこれからの家庭科教育～家庭科と学校教育活動全体との関連性～」					2
	北海道教育庁上川教育局教育支援課高等学校教育指導班	指導主事	高	井	央	
I	令和3年度北海道高等学校長協会家庭部会活動報告					
◆	北海道高等学校長協会家庭部会の組織と今年度の事業内容について					3
	北海道高等学校長協会家庭部会長	北海道江別高等学校長	田	邊	禎	明
◆	北海道高等学校家庭科教育研究協議会企画委員会報告					5
	北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長					
		北海道月形高等学校長	宮	崎	円	
◎	研究発表					
□	提言1 テーマ	教科間連携と授業改善を目指した取り組み				6
		北海道奈井江商業高等学校	教諭	高	橋	亜
			紀			
□	提言2 テーマ	各校の実情に合わせたホームプロジェクト活動の工夫・充実【共同研究】				10
		北海道芽室高等学校	教諭	五	十	嵐
			英	理	子	
II	令和3年度北海道高等学校家庭クラブ連盟活動報告					
◆	北海道高等学校家庭クラブの活動について					11
	北海道高等学校家庭クラブ連盟成人会長					
		北海道札幌北高等学校長	林	正	憲	
◎	第70回 北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会を終えて					12
		北海道当別高等学校	教諭	伊	藤	恵
			里	佳		
III	家庭科教育に関する報告					
1	第9回 北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会を開催して					13
	事務局	北海道江別高等学校	教諭	鈴	木	朋
			美			
2	初任段階教員研修Ⅰ年次研修（高等学校）「一般研修」に参加して					14
		北海道室蘭工業高等学校	教諭	成	田	亮
			花			
3	中堅教諭等資質向上研修（高等学校）第Ⅰ期・Ⅱ期研修教科別部会（家庭科）に参加して					15
		北海道千歳北陽高等学校	教諭	沼	田	美
			由	紀		
IV	各地区（ブロック）家庭科研究会の一年間の活動状況					17
1	空知管内	2 後志管内	3 石狩管内			
4	日高管内	5 渡島・檜山地区	6 胆振管内			
7	宗谷管内	8 オホーツク管内	9 上川・名寄地区			
10	留萌管内	11 十勝管内	12 釧根地区			
V	特別寄稿					
◆	家庭科教育への期待					23
		北海道札幌厚別高等学校長	井	上	明	子
◆	手作りマスク					24
		北海道釧路明輝高等学校長	吉	田	光	利
○	編集後記					25
		北海道名寄産業高等学校長	坂	野	裕	悦

巻 頭 挨拶

北海道高等学校長協会家庭部会長

北海道江別高等学校長 田 邊 禎 明

日頃より、北海道高等学校長協会家庭部会の運営に多大なるご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。長引くコロナ禍の収束が見通せない中、今年度も予定していた事業のほとんどを中止・縮小、またはオンライン、書面等にて実施することとなりましたが、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会、加盟いただいた各高等学校等の関係各位のご理解とご協力をいただきましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

全国状況も同様に、大会および対面での会議はすべて中止となり、オンラインでの会議も可能な限り回数を減らして実施されております。全国規模の大会や会議の中止は、それまでの準備や報告資料の作成など都道府県単位でも大変な業務が報われないばかりか、参加予定の生徒のモチベーションを考えると本当にやりきれない思いがします。

東京学芸大学名誉教授の小澤紀美子先生による「新しい学習指導要領と家庭科 令和4年度家庭科教科書執筆者による解説」の中では、いわゆる受験学力ではなく、「“生きる力”に磨きをかけ、しっかりと“根っこ”を育み、持続可能な社会の創り手を育成する」ということが打ち出されました。文部科学省はいきなり、方向を変えたのではなく、この方向性については1996年から議論されていたことで、約25年かかっています。

新しい学習指導要領（平成30年告示）においても、小・中・高校ともに、前文で「持続可能な社会の創り手を育成する」という理念が示されました。それと同時に、2015年には国連のサミットで「2015年から2030年までの長期

的な開発の指針として、『持続可能な開発のための2030アジェンダ』」が採択されました。この文書の中核を成す「持続可能な開発目標（SDGs）」の中の「4. 質の高い教育」の目標（すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する）が注目されています。また、ユネスコ平和と持続可能な開発ウィークにおいては、「SDGs達成に向けたESD（持続可能な開発のための教育）の重要性」について言及されました。

小澤先生はまた、「持続可能な社会のための教育の歴史は、『環境教育（EE）』から『持続可能な開発に向けた教育（ESD=Education for Sustainable Development）』を経て『ESDの実践を通してSDGsへ貢献する』と変化してきた。」と指摘されています。

まさしく家庭科教育は、コロナ禍にあってもなお、生徒たちの生涯にわたって、持続可能な生き抜く力を育成する重要な教科となっていくと確信しているところです。

今年度の各事業におきまして、生徒の活躍の場を提供するため、リモート開催を含め可能な限りの取り組みをしていただきました当番校および参加者・関係するすべての方に重ねて感謝申し上げますとともに、次年度もコロナの収束如何に関わらず、家庭部会に対する皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。

【家庭部会ホームページ】

<http://www.do-kateibukai.hokkaido-c.ed.jp/>

新学習指導要領とこれからの家庭科教育

～家庭科と学校教育活動全体との関連性～

北海道教育庁上川教育局教育支援課高等学校教育指導班 指導主事 高 井 央

令和4年度(2022年度)入学生より実施される学習指導要領では、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待され、学校教育では、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが謳われています。

また、学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っており、学習評価の改善の基本的な方向性である、児童生徒の学習改善や教師の指導改善、これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していく「指導と評価の一体化」の実現は一層求められます。

このことから、これからの教育課程には、社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」としての役割が期待されています。

このような中であって、高等学校家庭科の教育内容については、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進等に対応し、男女が協力して主体的に家庭を築いていくことや親の役割と子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活を設計するための意思決定や消費生活や環境に配慮したライフスタイルを

確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習活動を充実すること、また、これらの学習により身に付けた知識・技能を活用し、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実することが求められております。道教委としましては、これまで家庭科教育の充実に向けて創意工夫を凝らした指導例などを掲載した「高等学校教育課程編成・実施の手引」の作成とともに、今年度においては「各教科等教育課程研究協議会」を実施し、家庭科教育の充実及び円滑な教育課程の編成・実施に努めてまいりました。

なお、総合的な探究の時間においては、教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となることから、「探究の見方・考え方」を働かせ、自己の在り方生き方を考えながら、探究が高度化し、自律的に行われるよう、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」における問題解決的な学習のノウハウを取り入れ、各校にふさわしい探究課題の設定や、育成を目指す具体的な資質・能力の適切な設定を行い、明確化することができると考えます。

このことから、先生方には家庭科の授業や「学校家庭クラブ活動」を工夫するなど、各校が地域とともにある高校として、家庭科が果たす役割をこれからも検討し、学校全体の教育活動との関連を図っていただきたいと思います。

先生方におかれましては、これまでも家庭科教育の充実にご尽力いただいていることに深く感謝申し上げますとともに、今後とも、御協力をお願いいたします。

最後に、家庭部会関係各位に深く御礼を申し上げます、御挨拶といたします。

I 令和3年度北海道高等学校長協会 家庭部会活動報告

北海道高等学校長協会家庭部会の 組織と今年度の事業内容について

北海道高等学校長協会家庭部会長 田 邊 禎 明
(北海道江別高等学校長)

今年度、北海道高等学校長協会家庭部会には、175校の加盟をいただきました。加盟並びに各種のご支援ご協力をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

今年度の本家庭部会の組織、事業内容等は次のとおりとなっています。

■令和3年度 部会の役員構成等

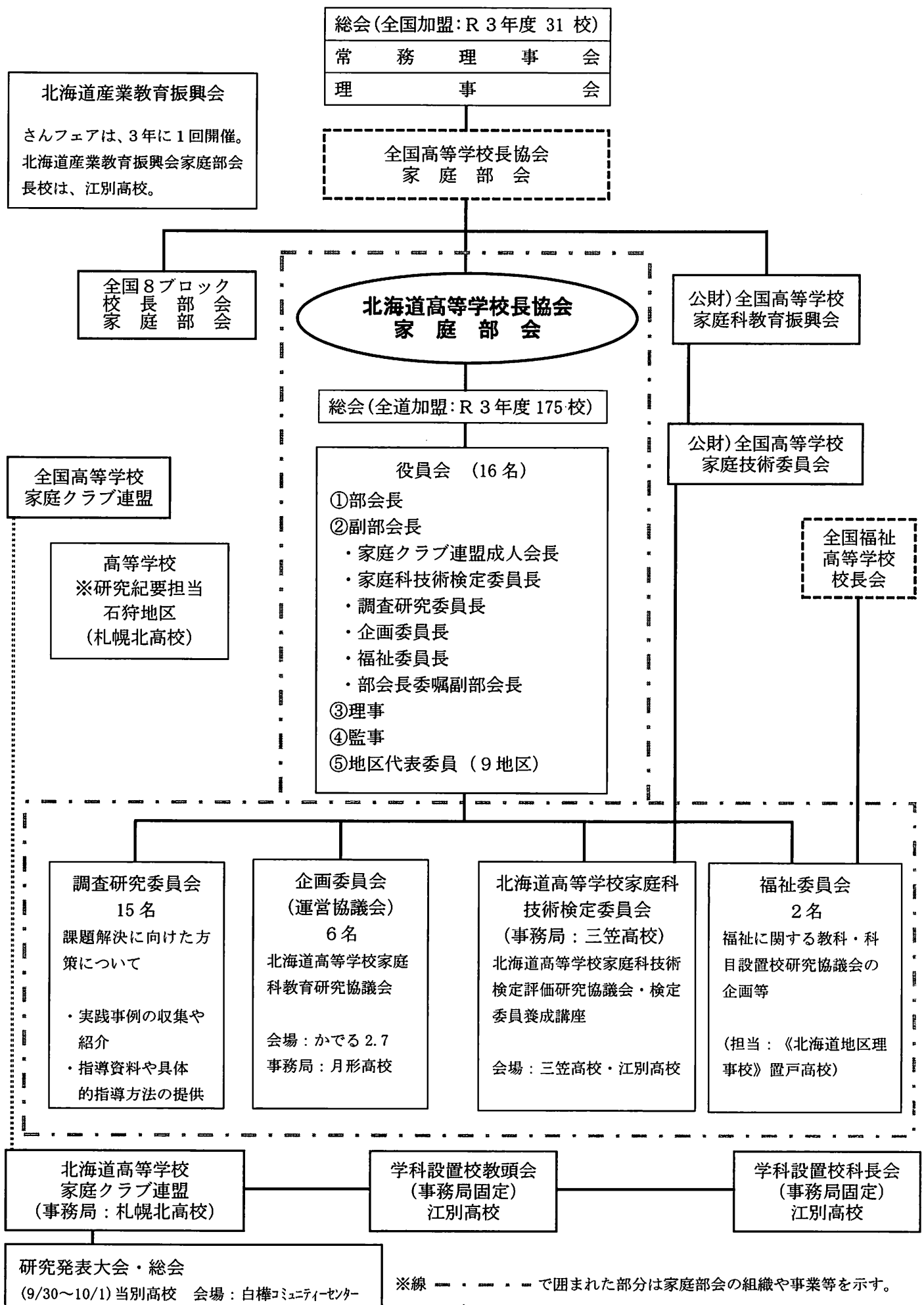
役 職	校長名・学校名	兼務する役職等
部会長	田 邊 禎 明 江 別	全国部会道代表理事 全国部会常務理事 全国家庭振興会理事
副部会長	井 上 明 子 札幌厚別	全国部会常務理事 全国家庭振興会評議員 調査研究委員長、企画委員 高教研部会長
	宮 崎 円 月 形	全国部会理事、企画委員長 調査研究委員
	林 正 憲 札幌北	家庭クラブ成人会長 調査研究委員
	池 田 延 己 函館大妻	全国部会理事、福祉委員 調査研究委員、道地区委員
	鈴 木 浩 三 笠	全国技術検定道理事 企画委員、調査研究委員 道地区委員
	飯 田 知 男 札幌丘珠	全国部会理事 調査研究委員
	渡 邊 周 一 千歳北陽	調査研究委員 道地区委員
監 事	吉 野 光 野 幌	調査研究委員 企画委員
	官 本 匠 当 別	調査研究委員 企画委員
理 事	坂 野 裕 悦 名寄産業	調査研究委員、企画委員 道地区委員
	小 森 章 史 置 戸	全国福祉部会道理事 福祉委員長、調査研究委員 道地区委員
他の 道地区 委員	西 川 勤 倶知安	後志、調査研究委員
	山 城 宏 一 登別青嶺	日胆、調査研究委員
	越 坂 直 広 池 田	十勝、調査研究委員
	吉 田 光 利 釧明輝	釧根、調査研究委員

■令和3年度 部会の主な事業

月 日	事 業 (会 場)
4/15	家庭科技術検定常任理事会(三笠高)
4/23	第1回家庭部会役員研究協議会(書面)
4/27	全国家庭科教育振興会理事会(Zoom)
5/12	家庭部会総会(書面)
5/13	道家庭クラブ'連盟第1回研究協議会(Zoom)
5/17	全国福祉校長会第1回理事会(Zoom)
〃	全国家庭部会、常務理事会、理事会(Zoom)
5/18	全国家庭部会総会、研究協議会(Zoom)
5/20	技術検定代表理事会(中止)
7/22・23	全国家庭クラブ連盟指導者養成講座(Zoom)
7/29・30	全国家庭クラブ連盟研究発表大会(Zoom)
8/3・4	道家庭科教育研究協議会(中止)
8/3	全国家庭部会北海道地区校長会(中止)
8/4	道家庭科検定委員養成講座 食物(中止)
8/5	道家庭科検定委員養成講座 被服・保育(中止)
8/19・20	全国家庭科実践研究大会和歌山大会(中止)
8/20	第6回北海道高校生介護技術コンテスト(Zoom)
8/30	第9回家庭部会意見・体験発表大会(Zoom)
9/30・10/1	全道家庭クラブ研究大会、総会(Zoom)
10/13	道高等学校産業教育意見・体験発表大会(Zoom)
10/30	第31回全国産業教育フェア～埼玉大会
11/19	福祉に関する科目設置校研究協議会(中止)
1/13	高教研家庭部会(札幌南高・Zoom)
2/4	全国常務理事会、理事会(中止)
2/22	道家庭クラブ連盟第2回研究協議会(中止)
〃	第2回家庭部会役員研究協議会(Zoom)

※令和4年1月7日現在

【令和3年度 北海道高等学校長協会家庭部会 組織図】



※線 — — — — で囲まれた部分は家庭部会の組織や事業等を示す。

北海道高等学校家庭科教育研究協議会について

北海道高等学校家庭科研究協議会会長

(北海道月形高等学校長) 宮 崎 円

令和3年度第70回北海道高等学校家庭科研究協議会は、8月3日(火)～4日(水)の日程で北海道立道民活動センター「かでの2.7」を主会場として2年ぶりの開催に向け準備を進めてまいりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染収束の気配の目途が立たず今年度も開催を見合わせる事となりました。

今年度の本研究協議会は、1952年(昭和27年)の第1回目から数えて節目の70回大会となる予定だったにも関わらず開催できなかったことは、誠に残念ではありますが、これを機に70年の歴史を振り返ってみたいと思います。

1910年(明治43年)「実科ノミヲ置ク高等女学校ノ名称ニハ実科ノ文字ヲ冠スヘシ」として、家事や裁縫など実用的教科目(実科)を主とした女子教育施設として新設された「実科高等女学校」。道内においても大正から昭和にかけ各地で町立の女子職業学校や実科高等女学校が開校していきました。その後1947年(昭和22年)の新制高等学校の発足により大半の実科高等女学校は、道立の女子高等学校へそして男女共学の高等学校へと変遷を遂げたことが各校の沿革から読み取れます。

新制高等学校発足後の数年は、学習指導要領の改訂が繰り返され、新教科「家庭」が創設された一方で、「実業を主とする高等学校」においては被服科が設置され、被服産業に従事する職業教育としての被服教育への期待から指導教員には高度な知識・技術が求められるなど、家庭科教師には、普通教科「家庭」におけるすべての単元を指導できる資質・能力と高い専門性が求められるようになり、当時の諸先輩方の苦勞がしのばれます。このような中で、全道各地で先生方の自主的な研究会や学習会が発足していたことは、第68回の本研究協議会において

上川地区の先生方から『あゆみ』にみる上川地区高校家庭科研究会42年間のあゆみ」として発表されております。

さて、全道規模の本研究協議会の記念すべき第1回目は、岩見沢西高等学校を会場に開催されました。その後全道各地区持ち回りで2007年(平成19年)の第56回まで開催され、日頃の実践発表、研究協議、あるいは講演等を通して研鑽を深め、日々の授業での悩みや苦勞を語り合い明日への希望を見出すとともに、当番地区の先生方の温かいおもてなしと美味に感動する研究協議会であったかとも思われます。

しかし、家庭に関する学科を設置する学校の減少、家庭科教諭複数配置校の減少をはじめ様々な要因が絡み合い、2008年(平成20年)～2011年(平成23年)までは運営委員会による運営、2012年(平成24年)からは、北海道高等学校長協会家庭部会企画委員会が主催し、各地区代表の運営研究員の皆様のご協力による運営研究協議会にて運営する形となり、今に至っております。

なお、今年度の本研究協議会においてご提言いただく予定だった、北海道奈井江商業高等学校 高橋亜紀先生の保育分野における教科横断的な取組についての授業実践ならびに十勝管内6校の学校の実情を生かしながらのホームプロジェクト活動の工夫・充実についてと題した共同研究につきましては、本誌にて紙上発表をしていただいております。

未だ、新型コロナウイルスの感染収束の見通しがた立たない状況を鑑み、次年度は8月2日(火)にZoomによる開催を予定しております。ぜひ、全道の家庭科の先生方の授業力向上に資する研究協議会になりますよう、引き続き関係の皆様のご協力をお願い申し上げます。

提言 1 教科間連携と授業改善を目指した取り組み

北海道奈井江商業高等学校 教諭 高橋 亜紀

1 教科間連携

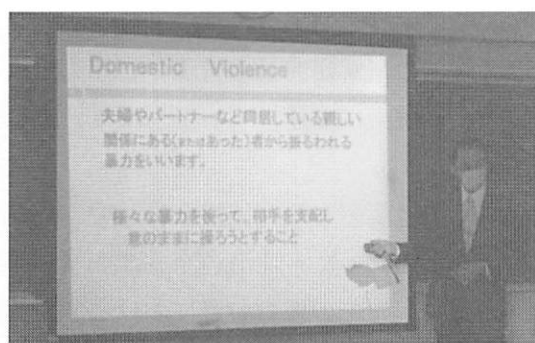
新学習指導要領で教科間連携が重視される中、広い範囲で題材を扱う家庭科は、他教科と連携できる内容が多い。本校では各教科間や外部との連携取り組みが多くおこなわれている。

その取り組みのひとつに、高校3年間で社会科・理科・保健体育科・家庭科、さらに養護・産婦人科医・滝川人権擁護委員協議会と他教科、多方面で連携しての「性の指導」の授業がある。

また、商業高校である本校は「生の指導」として、商業活動に関係した内容で家庭科・公民科・商業科で連携することもできている。

(1) 「性の指導」実践内容と目的

1年・・・「デートDV出前講座（人権擁護委員協議会）」「性講話（産婦人科医）」「性感染症（保健体育）」「保育分野・DV（家庭）」



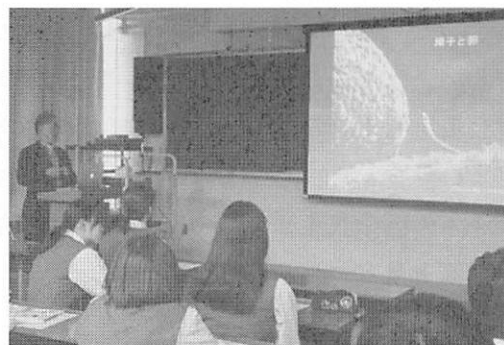
図ー1

人権擁護委員協議会のデートDV出前講座

～ 各教科で性に関する基本的な知識と問題点・注意点を学ぶと同時に、命の大切さを知り、より幸せに生きていくためにコミュニケーション能力を身につけ、周りの人を傷つけない社会人になることを目指す。

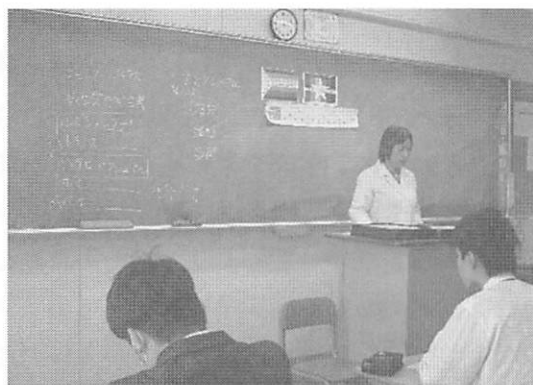
特に、デートDVでは自分の気持ちを伝えることのできる人間関係を築くことが、性の被害者や加害者になることを防ぐこ

とができる大きな要因だと知る。



図ー2 産婦人科医による性講話

2年・・・「性の多様性(養護)」「妊婦体験キットを装着しての日常体験(保健師)」「思春期と健康(保健体育)」「生物の共通性と多様性・DNA・ホルモン(生物)」



図ー3 養護教諭による性の多様性講座

～妊婦体験キットを装着(コロナ感染症防止の取組として、ゴム手袋装着しての脱着・消毒)し、日常生活の動作(次ページ参照)を体験していただくことによって、妊婦にはどんな体の変化があるのかを知り、どんな動きができないのか、どんな配慮が必要なのかを実体験しながら考える。また、性が男女2つの性だけではなく多様にあることを知り、自分自身と他人の性と向き合い、それから生じる偏見や差別などについて考える。

【 妊婦体験 】

- ①洗濯機の中のものを取り出して干す
- ②左下 図-4 買い物袋を下げて、階段昇降
- ③右下 図-5 靴紐をほどいて結び直す



図-4



図-5



図-6

- ④ 図-6 引き出しの一番上と下を開閉する
- ⑤左下 図-7 洗面台で顔を洗う
- ⑥右下 図-8 掃除機を出して掃除、しまう



図-7



図-8

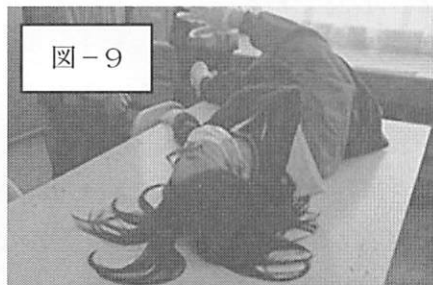


図-9

- ⑦ 図-9 机の上に寝て起き上がる

3年・・「社会人になるための心構え(保健師)」

「性的同意とIメッセージ(養護)」

～3年間のまとめ。卒業後、実生活の中の

「性」の問題に遭遇した時に考えなければならないこと、どのように行動したらよいのか、困ったことがあれば、どこに相談すればよいのかを知る。

(2) 生徒の学びとまとめ

3年間の「性の指導」のまとめとして生徒は「様々なことを学んできたが、あまり実感がなく、実際に経験をしてみないとわからない。経験をした時にこの勉強が役に立つと思う。」「他人を尊重して良好な関係を築くこと、それが人間関係で重要だと分かった。」「性や妊娠は身近な話だと思った。社会人になるとさらに身近になるので気を付けなければ。ただ、今は深く考えたくない。」と正直な感想を述べている。

今までは興味が先行する「性」であったとしても、自分と周りの「性」を尊重することによって、豊かな人生につながる可能性が高いことがわかった。3年間の教科間連携でおこなわれた一連の授業で、「性」は「生(生きること)」につながることに理解を深めた。

さらに本校では生活を営んでいくための経済活動を中心とした「生の指導」も多くの視点(生活者からの視点・国からの視点・商業的な視点)を持って学ぶことができる。

家庭科・・「生活をつくる」

公民科・・「現代の経済社会」「日本経済の特質と国民生活」「国際経済の動向と国際協力」

商業科・・「現代市場とマーケティング」「消費者行動」

(3) これからの課題

ひとつの物事をいろんな視点で考えさせることが深い学びのひとつだ。他教科と多く関連ある家庭科こそが、さらに他教科と連携し、深い学びに導くことが課題である。

2 授業改善を目指した取り組み

授業の板書はするが、興味を持って参加し、十分に授業内容を理解し、授業に関心を持ったことを生活に生かす…生徒は少ない。興味関心度や授業内容がどのくらい理解できたかを、生徒ひとりひとりから情報を得ることができれば、個人単位での理解の深まりや興味関心がどの程度であったかがわかる。また、授業ごとにそれができれば、次の時間に時間差なく、授業改善につながれるということは周知の事実である。ただ、どんな方法であれば生徒の状況を把握できるのか、中途半端にならないかと、一步を踏み出せずにいたが、授業の改善に対する数多くの取組をされている高知県立大学名誉教授 宇野浩三氏の「往復日誌」知る機会を得、氏からアドバイスをいただき、実践することができた。

(1) 準備と実施

「往復日誌」のオリジナル(図-1)を本校の生徒の実態に合わせて記入欄をアレンジ(図-2)している。

往復日誌(C) (ここに記入しないでください! No. _____)			
氏名: 宇野浩三		科目名: _____	
学年: _____		学期: _____	
月/日	言いたいこと・聞きたいこと・感想・あなたからの伝言板		
01	ペア相手氏名: _____ 担当: _____ 授業への関心度[...]: 参加度[...]: 理解度[...]: A(強い関心) ... B(ふつう) ... C(強い関心)		
/			
02	ペア相手氏名: _____ 担当: _____ 授業への関心度[...]: 参加度[...]: 理解度[...]: A(強い関心) ... B(ふつう) ... C(強い関心)		
/			
	ペア相手氏名: _____ 担当: _____		

図-1 「往復日誌」オリジナル

() 年度 令和 () 年度 往復日誌 コミュニケーション・カード			
担当: 高橋 亜紀		科目名: 家庭総合	
氏名: _____		(出席番号) _____	
月/日	今日のポイント・わかったこと・重要語句		
01	言いたい・聞きたい・感想・あなたからの伝言板		
/			
02			

図-2 「往復日誌」アレンジ

A4サイズで複数回往復すること、授業中配布するプリントとは違う意味を込めて、超厚口な薄色紙を選択。年間通してひとり7枚(2単位)は必要になるので、年度初めに必要枚数を購入する。各学年、各クラスで色も変えると混じることがないので見分けやすい。表面5時間、裏面授業6時間、計11時間分を両面印刷。

授業開きでは、「往復日誌」を配布後、ルーブリックの評価基準を用いての評価方法を説明。早速その時間から、授業の残り5分で記入→回収→生徒の記入に応じて質問には回答(できるだけ自分で調べるように勧める)・コメントにはコメント返し→次時の授業初めに返却→回収、を繰り返す。

往復日誌について

評価方法	往復日誌
S	人の一生や日常生活の現象について日頃から強い関心を持つ。生活の充実向上を目指して、自分の意思で取り組むことができ、判断することができる。
A	人の一生と日常生活の現象について関心を持ち、その充実向上を目指して積極的に取り組むことができる。
B	日常生活の現象について関心を持ち、取り組むことができる。
C	日常生活の現象に関心を持って取り組むことができず、課題等の取り組みや提出期限が守れない。

図-3 ルーブリック基準

(2) 生徒の反応と成果

授業の冒頭、「往復日誌」を返却すると、生徒は教員からのコメントにまず目を通すので、少し時間をおく。それから、ひとりひとり前時のポイントを「往復日誌」で確認させる。この時に自分で記入したポイントを詳しくどんな意味だったのかがわかりたい生徒は、ノートもめくって確認する者もいる。

さらに生徒のコメント等を取り上げて話題にすることで、前時の授業がどうだったかを振り返ること、これからの授業とのつながりを意識させることができる。また、友達の興味関心を知ることができることもあって、授業を始める雰囲気づくりにもなる。

この「往復日誌」を「今まで学んだ事を思い出すことができる」(図-4、図-5)とポートフォリオとして認識する生徒や、内容が生徒自身や家族のこと・ペット…(図-6)と多岐にわたり、「我が家では(でも)…」と授業中に学んだことに興味を持って、コメントする生徒もいる。

今日のポイント・わかったこと・出現語句	言いたい・聞きたい・感想・あなたからの伝言板
食物アレルギー・野菜の保存方法 ちろんOKです!! 時々果物にアレルギーも 描くのは面白いのでイン ペットにしようかな。楽し みにしています。	往復日誌は今日何で勉強した のか取りかえることまで3日間で いいと思います。感想のところに 今日勉強したことをイラストで現すのはオススメです。

图-4

今日のポイント・わかったこと・重要語句	言いたい・聞きたい・感想・あなたからの伝言板
追熟 成熟, ロ腔アルギ	僕日花お前月付月いきづれぬ。お前大使
一症候群 花柳症 について	お!! 在様月流にせしにこれおて。お前
アルギの切を食べてはらとら	今日聞。ん事かふり互ふことが出来る。お前
電が能るを月いれは	自分の月流に在てはる。お前。お前!!

图-5

[illegible]

图-6

五大陸味噌がけけり味	味噌がけは、感傷と思ふたの
鹿が丸、塩にうけ、甘味	ちよとおとしいた。塩は色で味
七強ぬ。そうゆにうけ	おけと、色でけりけり、強ぬりぬり
長時間煮てうけとけり味とゆ	わがた。そうゆは、煮た、煮る量
そうゆは、煮たゆけり味	今日の朝、チャーハン作て、そうゆは、けり
味噌にうけ、甘味	塩は、わがたに、けり、けり、味
砂糖は、砂糖、年、老、化、作、用、が、多	パン、スライス、餅、に、思、ふ、に、食、ぶ、指
けり、お、ホッ、ス、ス、ス	に、食、ぶ、に、思、ふ、に、食、ぶ、指

图-7

半期まとめの授業評価では即時性がなく、授業の生徒反応では具体的な改善点は見えづらい。「往復日誌」の実施により、教員と生徒が1対1でつながり、生徒からの情報を授業から時間をおかずに反映させやすい(図-7)。

(3) 成果と問題 そして課題と希望

この取り組みで、生徒の授業への姿勢や取り組みを知ることができた。さらに、ほんの数行の記入欄だが、その生徒のためだけにコメントする特別なつながりだからこそ、生徒のパーソナリティも知ることができる。それが授業をおこなう上での有効な情報源になるのである。ただ、それを手に入れるためには、どれだけ時間を費やすことができるのかが問題となる

「往復日誌」は1枚に2～3分の記入時間を最低必要とし、回収すると次の時間まで返却をしなくては意味がない。当然、授業だけをしているわけではないので、その合間を縫ってのコメント記入となる。担当している教科や時数が多ければ、躊躇してしまうのが正直なところだろう。

来年度からBYODによる一人一台端末活用が始まる。「往復日誌」をデバイスで使用・活用できるようにすれば今よりは実践しやすいはずだ。けれどもキーボードをたたいて入力する「往復日誌」にしてはいけないと思っている。生徒が書く字から伝わってくる情報がなくなるからである。だが、それを大切にしすぎることによって、新しい試みに一歩踏み出せないことにならないように、うまく折り合いがつく形で工夫し、利用できるようにしなければならないと思う。

生徒に深く学ばせ、学習を進めようとする意欲を持たせるための方策を仕掛けることも課題のひとつだ。その課題をクリアするためには、家庭科教員同士の豊かな経験を共有できる時間や機会を確保することが不可欠である。

文献引用 宇野浩三：往復日誌、教育研究業績書、pp79-80、2017。

提言 2 各校の実情に合わせたホームプロジェクト活動の工夫・充実

【共同研究】 北海道芽室高等学校 教諭 五十嵐 英理子

1 はじめに

十勝管内高等学校教育研究協議会家庭科分科会は21校全体での活動と近隣校のA・B・C3つのブロックに分かれて研究活動を行っている。3年ほど前から表記のテーマについてAブロックで取り組みを進め、今回の実践は6校の合同研究である。以下の報告は、各校のこれまでの実践や特色ある内容をまとめたものである。

2 実践内容（各学校より）

(1) 5つのテーマから考えるホームプロジェクト (帯広大谷：普通コース5間口・文理コース3間口)

5つのテーマから課題を見つけ取り組んだ。実践した成果は、1班4名構成で1人5分の発表を行い、3つの項目を設け自己評価と相互評価を取り入れた。相互評価を取り入れることで自己の生活を多面的に見つめる機会となった。

(2) ルーブリックを用い ICT を活用した(PPT、c-learning)実践について(南商：商業科5間口)

長期休業中の課題として先に簡単な評価基準を伝え、相互評価を行う事を説明し実施。前年度の実践例などを紹介し①テーマは自由（実生活における課題）、②実践活動写真を記録し添付すること、③発表形態は実物提示も可。動画紹介やPPTを別に作成し用いても可とした。

(3) コロナ禍におけるホームプロジェクト

(帯広三条：単位制普通科6間口)

コロナ禍で日常生活に不安を抱える中、家庭科が課題解決の一助となると考え、HPを提示した。①実践レポート作成②発表③評価を通じ、課題発見力、計画力、行動力、表現力が身に付き、人や環境に感謝が芽生える取り組みとなった。

(4) (鹿追：普通科2間口) 授業で各自の課題設定とそれに関する情報収集をし、実践計画を

立てさせた。長期休業期間中に実践し考察、自己評価しまとめさせた。休業明けの授業では、生徒所有のiPad内のKeynoteでスライド作成し、1人ずつ発表した。友人の発表から様々な分野の学習ができる実りのある時間となった。

(5) 取組み方法や発表の仕方を変えて

(清水：総合学科3間口)

令和元年は食生活分野での課題解決に向け、長期休業中に全員に取り組ませた。まとめは掲示物を作成し、写真等も添付させた。令和2年はチェックシートを用いて家庭の問題点について見つめさせ課題を設定した。長期休業中に実践させ、クラス内で発表後、相互評価をさせた。

(6) 1分間発表とクラスメイトの評価を取り入れて(芽室：普通科4間口)

事前に300文字の発表原稿を用意させ、他の人の貴重な研究を共有しやすいように、実物を見せる、ゆっくり話す等をアドバイスし、発信する力をつけることができた。お互いに評価しやすいように評価項目を精選し効果的だった。

3 まとめ

令和4年度に向けて、各校での取組みを参考に、自校の生徒の特色に合わせたホームプロジェクトについて更に研鑽を積みたい。

【共同研究者】

帯広大谷高等学校教諭	千葉 祐希
帯広南商業高等学校教諭	高橋 江恵
帯広南商業高等学校教諭	松原 明香
北海道帯広三条高等学校教諭	小林 郁美
北海道鹿追高等学校教諭	平澤 朋子
北海道清水高等学校教諭	河野 澄伶
北海道清水高等学校教諭	清水梨香湖
北海道清水高等学校元教諭	種畑 幸子

Ⅱ 令和３年度北海道高等学校 家庭クラブ連盟活動報告

北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動について

北海道家庭クラブ連盟成人会長

林 正 憲

(北海道札幌北高等学校長)

日ごろから本連盟の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

家庭クラブでは、家庭科で学んだことを活かし、自分の家庭や校内外の課題解決に取り組み、自ら生活を創造することのできる力を育むため、4つの基本精神（創造、勤労、愛情、奉仕）を柱として、研究活動やボランティア活動、交流活動を展開しています。その実践の場となるのが「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」であり、ホームプロジェクトは自分の家庭を、学校家庭クラブ活動は校内や地域の課題をそれぞれ見出し、創意工夫しながらその解決に向けた実践に取り組みます。まさに、これからの時代に必要な資質・能力を育む機会となっています。現在、本連盟に加盟している道内の高校（生徒数）は13校904名おり、支部大会や全道大会で研究発表を行い、交流を深めています。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ともにオンライン開催となりました今年度の全国大会と全道大会の結果を報告いたします。

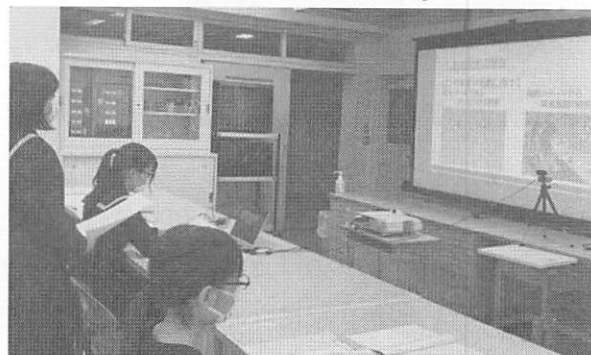
令和3年7月29日、30日の2日間にわたり、徳島県郷土文化会館（あわぎんホール）において、「藍が溢れる徳島から 愛が溢れる全国に希望の渦を創りだそう」をテーマに第69回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会がWeb開催されました。北海道から九州までの7ブロックの代表が発表し、北海道ブロックの代表として、ホームプロジェクトの部で、札幌丘珠高校3年平川 沙希さんが「祖母との暮らし～楽しく豊かに～」をテーマに、学校家庭クラブ活動の部では札幌北高校が「Share a happy stay home time! ～今だからこそ、自分で作る楽しさを!～」をテーマに研究発表を行いました。いずれ

も素晴らしい発表で、札幌北高校が全国3位にあたる徳島県教育委員会賞を、また両校とも、全国高等学校長協会家庭部会賞と全国高等学校家庭クラブ連盟賞を受賞し、審査員からも高い評価をいただきました。

令和3年9月30日、10月1日には、北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会が、当番校である当別高校と各加盟校をZoomでつなぎ、開催されました。制限のある中でも工夫をしながら開催できたことを、クラブ員も非常に喜んでいる姿が印象的でした。

ホームプロジェクトの部は5校、学校家庭クラブ活動の部では3校の発表があり、ホームプロジェクトの部では「我が家の料理革命!～無駄をなくそう～」をテーマとした、札幌丘珠高校2年 種市 心愛さんが、学校家庭クラブ活動の部では「まちのクリエイターは私たちから～「いつか」ではなく「今から」行動を～」をテーマとした札幌北高校がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。両校は北海道代表として、令和4年度山形県で開催される全国大会で発表を行います。両校には発表内容のさらなる充実を図り、全国大会での活躍を期待しています。

結びになりますが、今後とも本連盟の活動のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます、報告とさせていただきます。



(北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会オンライン開催の様子)

第70回 北海道高等学校家庭クラブ連盟

研究大会・総会を終えて

令和3年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会当番校
北海道当別高等学校 教諭 伊藤 恵里香

1 はじめに

令和3年9月30日・10月1日に表記大会を開催いたしました。昨年度は大会が中止となり、研究発表は書類審査、生徒研修は各校での実施となったため、今年度は顔を合わせた大会としたいと準備を進めて参りました。しかしながら、全道顧問並びに石狩支部顧問と開催方法について協議を重ねた結果、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中での通常開催は難しいと判断し、オンライン会議方式（Zoom）で実施することとなりました。

移動を伴わずに校内での参加が可能となるためか、参加校9校、例年より多い102名の参加人数となりました。

2 研究発表

各校の発表は、研究内容の紹介の目的で画面共有をして行い、審査は提出書類（研究発表用資料・研究発表プレゼンテーション資料・発表原稿）により大会とは別に行いました。最優秀賞となった発表は来年度の全国大会の北海道地区代表となります。



<当番校司会>

(1) 学校家庭クラブ活動の部

3校の発表がありました。最優秀賞は札幌北高等学校家庭クラブの「まちのクリエイターは私たち～「いつか」ではなく「今から」行動を～」となりました。

(2) ホームプロジェクトの部

4校の発表がありました。最優秀賞は札幌丘珠高等学校2年種市心愛さんの「我が家の料理革命！～無駄をなくそう～」となりました。

3 指導者養成講座報告

札幌丘珠高等学校より、発表用プレゼンテーション資料で報告がありました。

4 生徒研修

各校で行われている家庭クラブ活動の紹介を行いました。プレゼンテーション資料を使用したり、実物を見せたり、発表の仕方もさまざまでした。コロナ禍の中、各校が工夫して活動を行っていることや、地域と連携した活動をしていることなどを知ることができ、これからの家庭クラブ活動の参考となる良い機会となりました。



<生徒研修・活動紹介>

5 総会

札幌北高等学校、札幌丘珠高等学校の生徒が司会進行し、総会が行われました。

6 おわりに

初めてオンライン会議方式となりましたが、加盟校や審査員の皆様のご協力により、無事に大会を開催できましたことに感謝申し上げます。また、発表数が減少する中、新加盟校である南富良野高等学校の発表もうれしく思っています。

来年度の当番校は上川留宗支部の旭川永嶺高等学校です。新型コロナウイルス感染症が収束し、通常開催となることを祈念いたします。

Ⅲ 家庭科教育に関する報告

第9回 北海道高等学校長協会家庭部会

意見・体験発表大会を開催して

事務局 北海道江別高等学校 教諭 鈴木 朋 美

1 大会を運営して

今年度で9回目を迎えた家庭部会意見・体験発表大会は、『全道の高等学校で家庭・福祉を学んでいる生徒が、日頃の学習で学んだことの成果について、意見や体験を発表するとともに、生徒相互の交流をととして、「生きる力」を育み、家庭・福祉教育の充実を図る』ことを目的に実施しています。

しかしながら、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、生徒が一同に介しての発表大会は実施することができず、8月30日にオンラインによる大会を開催しました。

当日は札幌厚別高等学校井上明子校長先生をはじめとする3名の先生方が、オンラインでの発表を視聴して審査を行いました。今年度は参加校が7校と少なかったですが、次年度に向けて視聴のみを希望された学校もあり、オンラインならではの利点や可能性の広がりを感じることができました。

残念ながら直接の交流はできませんでしたが、いずれの内容も、「家庭・福祉」の授業や実習・体験・ホームプロジェクトなどをととして、自分の進路や夢・生き方につなげた発表を、参加者自身の声を通して聞くことができました。画面越しではありますが、休憩時間に参加者同士が手を振り合う場面などもあり、直接会えなくても顔が見える形で開催できたことに心温まる思いがしました。また、今年度は専門学科・総合学科からの参加だけでしたが、多様化した社会の中で、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる家庭・福祉教育の「生きる力」を感じることができました。

オンラインでの大会ということで不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけしましたが、今年度

参加いただいた各校の生徒の皆さん、ご指導をいただいた先生方に深く感謝申し上げます。来年度は従来の発表大会ができるよう、一日も早いコロナ禍の収束を願うとともに、多くの生徒が参加できるよう、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2 大会参加者

(1) 石狩翔陽高校 松林 優衣

『私たちが変える未来の福祉』

(2) 当別高校 手塚 クルミ

『私を変えてくれた家政科』

(3) 釧路高校 白内 くるみ

『真に寄り添うとは』

(4) 置戸高校 井関 蓮

『Welfare Infinity～福祉は無限大～』

(5) 名寄産業高校 富士田 彩音

『自立と人生計画』

(6) 三笠高校 村田 愛鈴

『私の目指す道』

(7) 江別高校 工藤 大和

『夢を現実に』

3 大会結果

最優秀賞（産振推薦）三笠高校 村田 愛鈴

優秀賞（産振推薦）置戸高校 井関 蓮

優秀賞 石狩翔陽高校 松林 優衣



初任段階教員研修Ⅰ年次研修（高等学校）

「一般研修」に参加して

北海道室蘭工業高等学校 教諭 成田 亮花

1 時期と実施内容

新型コロナウイルス感染症対策のため、対面によるものではなく、5月に第Ⅰ期、そして10月には第Ⅱ期とオンラインによる研修が実施されました。

(1) 第Ⅰ期

第Ⅰ期は胆振管内の高等学校の教諭が対象となつて研修が行われました。オンデマンド研修では教員の業務全般について、またオンラインによる研修では特に、生徒指導についての講義や協議を行いました。これらを通して、教職員同士の連携や情報共有の重要性、生徒を尊重して教育に向き合う大切さを学びました。

グループ協議の場面では、ホームルーム経営についての事例検討やロールプレイを通して、生徒の実態把握と担任以外を含めた教員同士の、組織的な対応が必要であるということを実感させていただきました。

(2) 第Ⅱ期

研修に参加する前の課題として、自分の担当教科で指導案を作成するというものがありました。そのため、家庭総合の保育分野で指導案を作成し、実施しました。

第Ⅱ期オンライン研修は、教科ごとに分かれて行われました。私が参加したものは、全道の家庭科教諭が対象でした。画面上ではありましたが、初めて同期の先生方と顔を合わせることができました。研修では主に、教諭同士の意見交換と作成した指導案の交流が行われました。これらを通して、生徒の興味・関心を惹くような授業を行うことの難しさや、教材の有効活用の重要性を改めて実感することができました。

2 振り返りと今後

初任段階教員研修で他の学校の先生方と意見を交換したり交流をしたりすることは、教員の自覚を高めることにつながりました。生徒一人ひとりの可能性を伸ばすため、生徒や地域の実態を理解し、アプローチの方法も変えていくことが必要であることを実感しました。

(1) 指導案作成と研修の振り返り（第Ⅱ期）

指導案作成と実践の経験を通して、生徒の実態把握の大切さについてあらためて考えることができました。同じ分野を教えるにしても、生徒が違えば授業展開の方法も変えていかなければならないということを学んだため、生徒の考えをより生かせるようなワークシートや授業の改善に取り組みしました。結果として、生徒たちの様々な変容を見取ることにつながりました。授業は生徒がおらずして成り立たないということを忘れず、今後も家庭科教員としての資質・能力を高めていきたいです。

(2) 今後について

初任段階教員研修で学んだことの一つは「自分事として考える」ということでした。授業においても、生徒指導においても様々な事態を想定して、教員として自分はどうしたいのかというイメージをつくっていききたいです。

また、来年度へ向けてやってみたいことや、やらなければならないことをまとめ、自身の学びの指標にしていこうと考えています。私自身が「こうなりたい」と考える教師を実現できるよう、今年度の反省を踏まえて、一つでも多く成長するために、今後の目標を明確にして臨んでいきます。

中堅教諭等資質向上研修（高等学校）

第Ⅰ期・Ⅱ期研修教科別部会（家庭科）に参加して

北海道千歳北陽高等学校 教諭 沼田 美由紀

1 令和3年度中堅教諭等資質向上研修の概要

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、第Ⅰ期はオンデマンド形式での研修、第Ⅱ期はZoomでの研修となった。

2 学校における取組

第Ⅰ期の研修受講後に「組織的な生徒指導の在り方」の課題設定シートを作成し、「いじめへの組織的な対応」、「不登校への組織的な対応」、「自殺予防への組織的な対応」の3つの中から各自が課題を選択し、取組みを記入。また、「学校組織マネジメントとミドルリーダーの役割」についても課題シートを記入し、第Ⅱ期に向けて準備を進めていた。

教科に関しては、第Ⅱ期研修で使用する単元の指導と評価の計画及び1単位時間の学習指導案とパワーポイントをあらかじめ作成し提出をしていた。

3 第Ⅰ期における学び

第Ⅰ期では、特に教職員の服務や学校組織マネジメントとミドルリーダーの役割等について理解を深めることができた。

教職員は公務員であるため、公務員としての服務の遵守等について改めて確認をし、引き続き守っていかなければいけないということを実感した。また、中堅教諭であることから、学校のみドルリーダーとして学校の中での役割や実践すべきこと等を学ぶことができた。

4 第Ⅱ期における学び

第Ⅱ期の全体会及び教科別研修はZoomでの研修となった。

（1）全体会について

全体会では組織的な生徒指導の在り方や教育相談の方法、ミドルリーダーの役割について講義・協議・演習を行った。

協議・演習では、いじめ・不登校・自殺等に関する自校の取組み内容や、第Ⅰ期の講義内容を踏まえ自らが設定した課題について4名程度のグループ別に話し合いを進めた。また、不登校の生徒の事例を元に、自分ならどのようにその生徒や保護者に対応をするかを各自で考えるとともに、その考えを共有することができた。

また、学校組織マネジメントとミドルリーダーの役割では、自身が設定した課題とその具体的な取組や、Ⅰ期以降の実践における成果と課題について共有することができた。

（2）教科別研修

教科別研修では始めに「指導と評価の一体化について理解を深め、円滑な評価及び授業改善を目指す」ことをねらいに、学習評価の目的(指導と評価の一体化)や3観点の考え方、「評価」と「評定」(総括の方法)等について確認をすることができた。また、各自が作成した指導案やパワーポイントを元にした発表をとおして、それぞれの授業の進め方について情報共有をすることができた。

5 今後の取組み

次年度に向けて、3観点評価の方法も含めた評価規準や評価方法の整理を進めていきたいと考えている。また、ICT機器についても今後活用をしていき、生徒が能動的に活動する授業づくりやより分かりやすい授業づくりをしていきたいと考えている。

IV 各地区（ブロック） 家庭科研究会の 一年間の活動状況等

空 知 管 内

- ◇名称；空知高等学校家庭科教育研究会
- ◇運営母体；空知高等学校教育研究会
- ◇実施回数；1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数 24校／28校
- ◇会員教員数 54人（実習助手等含む）
- ◇次年度事務局校；北海道栗山高等学校

◆実施日 令和3年10月8日（参加者13名）

(1) 総会

- ・令和2年度 事業報告・会計決算報告
- ・令和3年度 事業計画案・予算案
- ・令和3年度 会員・規約の確認
- ・事務局ローテーションの確認
- ・令和4年度 研究会の内容について

(2) 研修①

「じけいえんごはん～時短かんたんやわらかレシピ」調理実習

講師 社会福祉法人 特別養護老人ホーム
芦別慈恵園

理事・総合施設長 川邊 弘美 様
管理栄養士 村上 由佳 様

研修② ※Zoomでの研修に変更

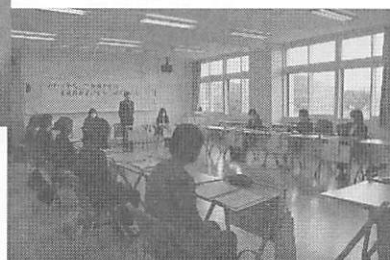
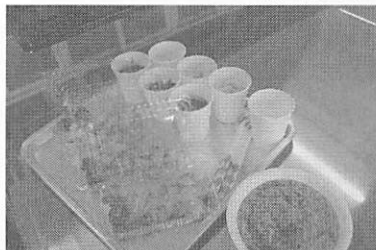
「授業で使える消費者教育」

講師 一般社団法人 北海道消費者協会
教育啓発部長 斎藤 清美 様

(3) 研究協議

「ICTの活用とコロナ禍での実習について」

助言 北海道教育庁空知教育局
教育支援課高等学校教育指導班
指導主事 山本 昌枝 様



後 志 管 内

- ◇名称；第40回後志管内高等学校家庭科研究会
総会・研究協議会
- ◇運営母体；後志管内高等学校家庭科研究会
- ◇実施回数；1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数 13校／20校
- ◇会員教員数／管内教員数 13名／17名
- ◇次年度事務局校；北海道余市紅志高等学校

◆実施日（書面決議）

総会

- ・本年度役員の確認
- ・令和2年度事業報告
- ・令和3年度事業（案）
- ・令和4年度以降の当番校の確認
- ・令和4年度全道家庭科研究協議会運営研究員等の確認

◆実施日 令和3年12月2日（木）

（参加者11名）

研究会（オンライン形式）

(1) 講演 「生徒に伝えたい金融リテラシー」

講師 一般社団法人全国銀行協会
パブリック・リレーション部
金融リテラシー推進室 調査役
窪田 敦子 氏

(2) 授業実践に関する情報の共有

アンケート形式で実施

石狩管内

◇名称；北海道高等学校教育研究会石狩支部家庭部会

◇運営母体；高教研石狩支部家庭部会

◇実施回数；1年に3回

◇会員学校数／管内学校数 34校／70校

◇会員教員数／管内教員数 48人／105人

◇次年度事務局校；北海道札幌手稲高等学校

◆実施日 令和3年5月11日予定でしたが、中止とし、総会については書面開催としました。

(1) 総会

- ・令和2年(2020年)度 事業報告
- ・令和2年(2020年)度 会計決算報告
 - ・会計監査報告
- ・令和3年(2021年)度 研究協議会計画(案)
- ・令和3年(2021年)度 会計予算(案)
- ・令和3年(2021年)度 役員一覧(案)
 - ・新役員紹介

◆実施日 令和3年11月2日(火)
オンライン開催(参加者36名)

(1) 実技研修

「ハーバリウムを作ってみよう」

(2) 各ブロック情報交換・交流会 →各ブロックにて別途行う

◆実施(予定)日 令和4年2月8日
オンライン開催

(1) 講演

「金融商品や資産形成について生徒に何をどう教える」

講師 日本証券業協会 北海道地区協会
課長 珍田 珠希 氏

(2) 各ブロック情報交換・交流会

日高管内

◇名称；令和3年度日高管内高等学校教育研究家庭科研究会

◇運営母体；北海道日高高等学校

◇実施回数；1回／年

◇会員学校数／管内学校数 6校／7校

◇会員教員数／管内教員数 7人／7人

◇次年度事務局校；北海道静内高等学校

◆実施日 令和3年11月19日(金)
(参加者5名)

(1) 研修

「学校向け副教材を使用した授業実践勉強会
(生活設計やリスク管理について)」

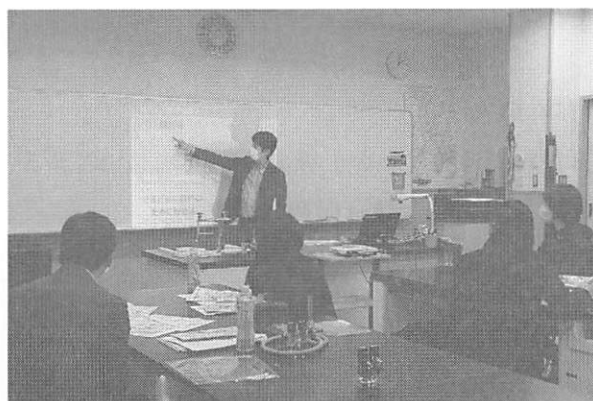
公益財団法人 生命保険文化センター
斉藤 数弘 氏

<内容>

- ・生活設計とリスクへの備え
- ・事例から考えるリスクマネジメント
- ・「成人」になるということ

～成人年齢と契約について～

生活設計とそのリスク、成人年齢引き下げに伴う授業について、授業実践に役立つ資料等を提供いただき講演していただいた。



(2) 研究協議

- ・「指導と評価の一体化」の各校での取り組みについて
- ・授業実践情報交換
- ・令和4年度以降の当番校などの確認

渡島・檜山地区

◇名称；令和3年度 渡島・檜山地区高等学校
家庭科部会研究協議会

◇運営母体；北海道函館水産高等学校

◇実施回数；1回

◇会員学校数／管内学校数 17校／28校

◇会員教員数／管内教員数 32人／40人

◇次年度事務局校；遺愛女子高等学校

◆実施日 令和3年11月4日（木）
（参加者15名）

(1) 総会

- ・令和2年度事業報告・決算報告
- ・令和2年度会計監査報告
- ・令和3年度予算案審議
- ・当番校ローテーション確認

(2) 研究協議

*当番校が指導主事2次訪問教科教育指導のため公開授業と合評会も参観参加可能とした。

<午前>

公開授業1 授業者 金澤久子

「コロナ対応の調理実習：衛生的な栄養満点の
簡単テイクアウト弁当づくり」

公開授業2 授業者 西田真沙子

「Chromebookの試験的活用：
鶏の部位と調理特性を知り調理を計画する」

<午後>テーマ：3観点評価の実施にむけて

講演 「高等学校家庭科における3観点評価の
実施にむけて」

講師 北海道教育庁空知教育局教育支援課高等
学校教育指導班

指導主事 山本昌枝氏

ご講演後に総会を実施、研究協議は講演を柱
に、現段階での3観点評価の試行例や先行する
中学校での取組例、ループリック評価票、など
参加者から紹介してもらった。

胆振管内

◇名称；令和3年度胆振管内高等学校教育研究会
家庭部会

◇運営母体；胆振管内高等学校教育研究会家庭
部会

◇実施回数；1回／年（今年度は未実施）

◇会員学校数／管内学校数 25校／25校

◇会員教員数／管内教員数 32人／33人
（講師5名含む）

◇次年度事務局校；北海道穂別高等学校

◆コロナウィルス感染拡大のため中止

調理・被服実習のコロナ対策と取り組み状況、
クロームブックを活用した授業の実施の有無と
具体的な内容、評価の観点とそれぞれについての
具体的な評価方法等を伺い、まとめたものを
配布した。

宗谷管内

◇名称；宗谷管内高等学校教育研究会家庭部会

◇運営母体；宗谷管内高等学校教育研究会

◇実施回数；隔年（令和3年度は実施なし）

◇会員学校数／管内学校数 7校／7校

◇会員教員数／管内教員数 7人／7人
（実習助手等含む）

◇次年度事務局校；稚内大谷高等学校

◆実施（予定）日 令和4年11月（予定）
（参加者7名）

(1) 総会

(2) 研修

(3) 研究協議

オホーツク管内

- ◇名称；オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会
- ◇運営母体；オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会
- ◇実施回数；1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数 23校／23校
- ◇会員教員数／管内教員数 28人／28人
- ◇次年度事務局校；北海道美幌高等学校

◆実施日 令和3年9月7日予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策「まん延防止等重点措置」の期間が9月12日まで延長されたことに鑑み研究会の開催を中止し、総会は書面決議、予定していた講演の資料等を後日送付した。

(1) 総会；書面決議

- ・令和2年度事業報告並びに令和2年度決算報告・監査報告
- ・令和3年度事業計画（案）並びに令和3年度予算（案）
- ・令和3年度オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会役員（案）
- ・事務局兼当番校の確認
- ・その他

(2) 講演；資料配付

演題「新学習指導要領改訂を踏まえた家庭科教育について（評価・単元配列表）」
講師 上川教育局 高井 央 指導主事

上川・名寄 地区

- ◇名称；上川管内高等学校教育研究会
教務部会家庭分科会
- ◇運営母体；上川管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数；1回／1年 *今年度は1回中止
- ◇会員学校数／管内学校数 25校／30校
- ◇会員教員数／管内教員数 44人／46人
(実習助手等含む)
- ◇次年度事務局校；北海道旭川工業高等学校

◆実施日 令和3年5月12日(水)
(参加者19名)

(1) 総会

- ・令和2年度研究協議会報告
- ・令和2年度会計決算報告・監査報告
- ・役員改選
- ・令和3年度研究協議会計画（案）・予算（案）
- ・事務局校、当番校、運営委員に関する確認

(2) 研修・研究協議

①授業の導入方法に関する研修

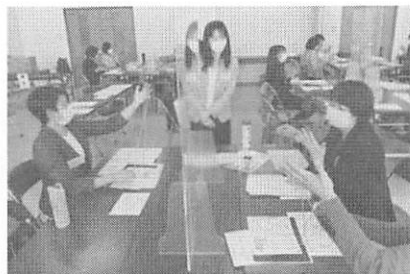
(当番校の発表)

②旭川市の子どもの支援システムと現状

講師：旭川市子ども総合相談センター
児童相談係 主査 本間 聡 氏、坂田 尚司 氏
旭川市役所 子育て支援部主幹付 橋本由宇氏

研修①では、当番校の教員4人でミニ授業リレーを行いました。授業を実際に体験することで様々なアイデアや工夫を知り、授業改善やスキルアップを目指しました。

研修②は旭川市子ども総合相談センターから講師を招き、児童相談の内容や対応について、ファミリーサポートセンター事業や研修制度など、多くの情報を提供いただきました。



留 萌 管 内

◇名称；留萌管内高等学校教育研究会

◇運営母体；留萌管内高等学校家庭科教育研究
協議会

◇実施回数；1

◇会員学校数／管内学校数 3校／6校

◇会員教員数／管内教員数 4人／4人
(実習助手等含む)

◇次年度事務局校；北海道天塩高等学校

◆実施日 令和3年10月28日(木)

(参加者3名)

(1) 総会

- ・令和2年度事業報告
- ・令和2年度会計報告
- ・令和2年度監査報告
- ・令和3年度事業計画(案)
- ・令和3年度予算(案)
- ・規約確認
- 来年度の当番校確認
- ・その他

研究協議会を開催するにあたり、充実した研修や協議を行うための予算措置を要望する。(講師の謝礼や交通費などがあれば、研修の内容の選択の幅が広がると考える)

(2) 研修

講演「SDGs～持続可能な社会の実現に向けて」と題して、北海道銀行(株)天塩支店 支店長 井上 浩一 様を講師として迎え、本校1・2年生に向けて講演を行った。1年生は「家庭基礎」、2年生は「現代社会」の授業で取り扱い、その講演を管内の先生方にみていただいた。地域の人材を活用し、町と高校が一体となって教育力を高めることと、教科の枠を越えて社会科と連携して授業づくりを行うことの2点が目的である。来年度新設される「公共」と「家庭基礎」において、今年度行った講演などを元に、1年生でさらに連携を深めながら行っていく予定である。

また、「総合的な探究の時間」との連携も視野に入れ、「家庭基礎」「公共」をはじめ、生徒が他教科の学習をうまく取り入れられるような授業づくりを行っていくことが望ましいと考えられる。

(3) 研究協議

SDGs 講演の内容を受け、「家庭基礎」の特に消費・環境分野について協議を行った。また、来年度から導入される一人一台端末についての進捗状況について情報交換を行った。

天塩高校では昨年度末に町から生徒および教員に貸与された iPad が配布され、教室にもモニターが設置され、4月から授業を行っていることを報告。各校準備を進めている段階であるが、進捗状況は各校ばらつきがあるようである。



生徒は貸与された iPad を持参。スクリーンに映し出されている資料は端末に事前に配布されており、中にはメモをとりながら聴く生徒もいた。

十 勝 管 内

- ◇名称；十勝管内高等学校教育研究会家庭分科会
- ◇運営母体；十勝管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数；2回／年
- ◇会員学校数／管内学校数 21校／22校
- ◇会員教員数／管内教員数 37人／38人
(講師、実習助手を含む)
- ◇次年度事務局校；北海道芽室高等学校

◆実施日 書面決議及び中止

- (1)総会→コロナウイルス感染症拡大防止のため
書面審議
- (2)研究協議会→中止

◆実施日 令和3年11月2日(火) (参加者20名)

- ・場所 大樹町宇宙交流センター (午前)
MEMU EARTH HOTEL (午後)
- (1)講話1「大樹町の魅力と民泊と」
講師：大樹町教育委員会
地域コーディネーター
神宮司 亜沙美 氏
- (2)講話2「建築家がなぜ漁業改革に!?ブルーリ
ビングの活動について」
講師：理論建築家 小笠原 正樹 氏
「次世代につなぐ新しい漁師の可能性
を拓く」
講師：漁師 保志 弘一 氏
- (3)研究協議
テーマ：「生活課題を主体的に解決できる生徒の
育成を目指した家庭科教育の実践」
①各学校の授業実践交流「新型コロナウイルス
感染症の対策を踏まえた取組み」
②全道家庭科教育研究会について
③管内家庭分科会当番校ローテーションにつ
いて
- (4)見学1 大樹町宇宙交流センター sora
- (5)見学2 MEMU EARTH HOTEL

釧 根 地 区

- ◇名称；釧路管内高等学校教育研究会
(家庭科部会)
- ◇運営母体；釧路管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数；1回／年
- ◇会員学校数／管内学校数 20校／20校
- ◇会員教員数／管内教員数 24人／24人
- ◇次年度事務局校；北海道根室高等学校

◆実施日 令和3年10月20日(水) (参加者13名)

- (1) 総会
 - ・令和2年度事業報告
 - ・令和3年度事業計画(案)について
 - ・本研究会の名称の統一および釧根地区高等学
校教育研究会 家庭科部会会則の改正につい
て
 - ・釧路管内高等学校教育研究会(家庭科部会)
の資料保管期間について
 - ・事務局・当番校のローテーションおよび令和
4年度当番校について
 - ・北海道高等学校家庭科教育研究協議会に係
るローテーションについて
- (2) 講演
「成人年齢引き下げによる民法および契約の
変更について」
講師 よつば法律事務所
弁護士 山 田 光 洋 氏
- (3) 研究協議①
各校の新教育課程について
- (4) 研究協議②
各校の家庭科教育について

V 特 別 寄 稿

家庭科教育への期待

北海高等学校長協会家庭部会副部長
北海道札幌厚別高等学校長 井 上 明 子

大学卒業後、壮瞥高校、遠別農業高校と産業教育に関わる高校から、教員生活がスタートとなりました。

自分自身は普通科高校から教員養成大学に進んだ経歴ということもあり、そこで展開されている実践的・体験的な教育活動には大きな衝撃を受けました。同時に、専門科目を指導するための技術力の習得・向上に迫られる毎日でした。

校内の農場で生産された農産物（壮瞥ではリンゴなどの果樹等、遠別ではもち米・羊肉・鶏肉等）を活用したレシピ開発や校内外での販売・講習会の企画・実施、収穫祭やバザーなどでの大量調理の企画・実施等、地域と連携した学習活動に生徒とともに夢中になって取り組みました。また、農業クラブ活動におけるプロジェクト学習（問題解決学習）は、その後の私にとっての教員人生に大きな影響を与えるものとなりました。今でこそ、どの教科においても探究学習の必要性が重要視されていますが、50年以上も前から農業クラブや家庭クラブは取り組みられ、文科省の学習指導要領上にも明確に位置付けられています。

その後、平成2年に、家庭部会長校である江別高校に赴任し、家政科から生活デザイン科への学科改編と校舎移転・改築をほぼ同時に経験しました。当時は、まだ家庭科の男女共修も実施されておらず、普通科1年女子6組（2組合同）の「家庭一般」と、家政科2年の「食物」3単位と、3年の「食物」6単位、定時制の「家庭一般」2単位を担当することとなり、夜間実施のベターホーム協会の料理教室等にも通い、特に説明・実演のタイミングや調理器具の適切な扱いなど、参考にしました。

学科の改編については、学科のビジョンを考える上で、どのような生徒を育てるのかという

視点に立ち、日々協議を重ねました。従来の「家事裁縫教育」のイメージから脱却した職業人の育成を前面に押し出さなくてはならないのでは、また、当時、食に関する学科が道央圏に多くある状況も踏まえ、色彩とデザインを基本にファッションと染織やインテリアに関する学科を創るという視点で「生活デザイン科」に決定し、教育課程を編成しました。今後も時代と地域のニーズに合わせ、学科は柔軟に変化していくものと考えます。

その後5年間の行政時代を経て、名寄産業高校に教頭として赴任し、産業教育に再び携わることとなりました。その際、工業教頭会に入会しご支援をいただくとともに、文科省の教育課程指定校となり、生活文化科の先生方には本当にお世話になりました。その後、校長として津別高校に赴任し、家庭部会調査研究委員長を務め、平成27年及び29年に全道の家庭科の実施状況等の調査を実施し、平成30年の全国高等学校長協会家庭部会研究協議会（大分大会）において、調査結果及び改善方策について、発表する機会をいただきました。

社会も激しく変化する中、生徒が予測困難な社会を生き抜いていくためには、目の前の事象から課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の人と協働し行動していく力が求められています。全道において日々孤軍奮闘しておられる家庭科の先生方が、学校の要となり、今後ますます研鑽を積まれ生徒の「生きる力」の育成に尽力されることを期待しています。

手作りマスク

北海道高等学校長協会家庭部会釧根地区代表委員

北海道釧路明輝高等学校長 吉 田 光 利

「特別寄稿」ということですが、たまたま家庭部会の釧根地区代表校である釧路明輝高校に赴任し、今年度をもって定年退職するというだけで、大変申し訳ありませんが、家庭科教育に対して殆ど貢献らしいことは何もできていません。したがって、このような原稿を執筆することに大変恐縮している次第です。とは言え、せつかくの機会ですので60年間の自分の人生における家庭科教育との繋がりについて思い起こしてみることにします。

私と家庭科の出会いは、同年代の皆さんがそうであるように、小学校の高学年で始まる家庭科の授業です。好奇心旺盛の私にとって、どんなことでも初めてのことは興味津々でした。特に実技が多い教科だったので、かなり積極的に取り組んでいたことを覚えています。お陰様で、それらの授業後からボタンは自分で付けられますし、アイロンもかけられます。料理も基本的なことはできるようになったので下手ですが結構好きです。まさか、数十年後の単身赴任生活に多いに役立つことになることなど、その時は考えもしていませんでしたが。改めて、日本の義務教育の素晴らしさについて身をもって感じております。

一昨年、世界中でコロナが感染拡大し始め、前代未聞の全国一斉の学校臨時休業になりました。そして、需要が急増したマスクの調達が大きな課題となり迎えた4月の始業式の際、前夜に拵えた手作りマスクを全職員・全校生徒に披露し、「小学校までしか家庭科の授業経験がないおじさんでもできたのだから、皆さんは絶対できるはず。手に入らないのなら、是非自分で作って用意しましょう。」と訴えました。手作り用の材料も不足している中、100均で材料を見つけ、ネットで作り方を検索し、小学校で学ん

だごく簡単な縫い方のみで完成しました。そのマスクは、なぜか捨てられず未だに校長室の引き出しの中に記念にとってあります。

さて、私が本校へ着任したのは新型コロナが発生する前の平成31年度(令和元年度)でしたので、当然、家庭部会の動きもそれまでと同様に当たり前の状況でありました。ただ、本部会への本格的な参加は初めての経験だったので、右も左もわからぬままご迷惑をおかけしていたことを思いだし反省しております。翌年には、家庭クラブの全道大会当番校を引き受けることもあり、少しは何かお役に立つことができればと意気込んでいましたが、このような状況の中であり通常実施はできず、その他の計画もほぼ中止や資料開催等に変更せざるを得なくなり今日に至っております。

本校が地区代表となっている理由は、釧路の女子教育を牽引し、家政・福祉科や家庭クラブの実践で一時代を築いた市立釧路星園高校を前身の一つとして誕生した高校だからであり、地域の家庭・福祉教育の核としての役割を担っていることを忘れてはなりません。星園高校の存在を垣間見ながらこの地に育てられた私の使命として、その歴史と伝統を引き継いでいる意味を改めて確認し、さらに発展させることを肝に銘じて職務を遂行してきました。

最後になりますが、退職まであと僅かと成り、せつかく携わることができた本部会に何もできず任務を終えることに対して大変申し訳なく思うと共に、関係しました全ての方々に感謝の気持ちをお伝えし、本寄稿を締めくくります。来年度こそは、このままコロナが終息し、通常の活動に戻り本部会が二年間のブランクを取り戻し益々繁栄していきますことを心より願います。本当にありがとうございました。

編 集 後 記

皆様のおかげをもちまして、北海道高等学校長協会家庭部会誌「こです HOKKAIDO 2021」が完成しました。

編集に当たり、お忙しい中、快く寄稿していただきました校長先生や多くの先生方、関係各位に心からお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症への対応も2年が経とうとしています。秋には嘘のように落ち着いてきたことから、中止していた大会や研究会、学校行事が実施できるのではないかと考えていました。ところが12月に入り新たな変異株であるオミクロン株が確認され、年明けには感染が急拡大、第6波に入り先行きはいまだ不透明のままです。ワクチン接種も3回目がはじまろうとしており、1日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願うところです。

そのような中、令和2、3年度の2年間にわたり、本誌「こです」の編集担当をさせていただきました。「こです」は家庭科部会の活動の記録として、研究資料の保存、継承するための貴重な役割を担っていることを改めて実感しています。

本校は令和7年度末をもちまして16年の歴史を閉じることになりました。新設校に学科としての家庭科は残りませんが、名寄恵陵高校、名寄光凌高校時代からの伝統を何かの形で残していきたいと考えております。これまでの本校の教育に対しましてご理解とご支援ならびに数々のご指導とご厚情に感謝申し上げます。残りの3年間、有終の美を飾るべく教職員一丸となって、教育活動に邁進して参ります。

家庭科部会のますますのご発展をご祈念申し上げ、少し早いですがお礼の言葉にかえさせていただきます。

こですHOKKAIDO2021編集担当校

北海道名寄産業高等学校長 坂 野 裕 悦

北海道高等学校長協会家庭部会　こです HOKKAIDO

発行日　令和４年３月３１日
発　行　北海道高等学校長協会家庭部会事務局
　　　　　（北海道江別高等学校）
編　集　北海道名寄産業高等学校
印刷所　社会福祉法人　共友会　札幌福祉印刷
　　　　　札幌市西区西町北１５丁目５番７号
　　　　　TEL　（０１１）６６７－７７７１
　　　　　FAX　（０１１）６６７－９７５０

こです HOKKAIDO とは

「こ」 Collected papers

集 録

「で」 Domestic Science

家庭科

「す」 Studies

研 究

家庭部会が研修して、それをまとめあげる
こーして仕上げることを、でかすと解釈し
北海道は、「こーですヨ」という意味です